



# 君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ  
平成28年7月27日(水)

Vol.332

きみつまちづくり創生特別委員会への期待

## 秋元 秀夫

新しく「きみつまちづくり創生特別委員会」を発足させて頂きました。

従来の活性化委員会があるのに屋上屋を重ねるのではとの気念をお持ちの方もありませんがこれからの経済は会議所独自の考え方だけではなく、政治・行政・他の関係団体・市民を協力していく必要があると考えたからであります。時には境を越えて隣接市と協調する必要も出てきたからであります。

例を挙げるならば、一つに富津沖空港論があり、先日お会いした知事の側近の方は空港よりも湾口道路の可能性が大だとも言われて居ります。また別の方は今一度4市合併を再考し急ぐべきだと言う方も居ります。

また人口政策には駅に近い貞元地区が宅地造成に最適だが、浸水地域なので減歩率80%が見込まれるので、三直地区から始めるべきだとの諸説もあります。一方、国際的には国連支援交流協会等が日本での農産物生産農場、農業大学の設置を模索してその拠点として君津市へと訪ねて居られます。こうした多くに問題を取捨選択し、生かしていただきたいと願ったからであります。

しかし商工会議所の在り方としてはあくまでも、法人格会員凡900社・自営業850店の次の生残る策としたいからであります。

先日の京都の観光大会報告で述べさせて

頂いた様に、単なる利益・効率を求めるのではなく、このまちに郷土愛を持って生きる者たちが家族ぐるみで生きて行けるまち作りであってほしいと思っております。心配される事は、人口減少を解消すればすべて地方の課題は解決できるという考え方です。

今回の地方創生政策を通して、過去の失敗の経験を生かさない過剰な活性化事業を唱えて居る自治体・民間企業がありますが、既に人口減少は急速に進んで居り、空店舗・空家・空いた産業団地・商業施設はオーバーストアとなって居り、供給すれば成功する時代ではないと私は思っております。今求められるものは人口減少で潰れるのではなく、人口が減っても潰れない経営であります。人口が増加しなければ潰れると言う社会構造を修正しないで、全て「人口を増加すれば解決できる」と言う考え方は極めて危険だと私は思っています。

今、君津市は、学校の統廃合の問題、偕楽園の老朽化、学校給食センター、観光センターの運営の問題、道路・川・橋の整備等が累積して居ります。私は出来れば、廃校・偕楽園の問題は一つの机上にまとめて乗せて、学校が一つ廃校になるならばこの施設に老人の集合施設、学校歴史博物館(京都の例)、埋蔵文化財博物館、老人達が持つ技能・芸を子供達へ伝える学びの街教室(京都の例)、体育館も校庭も老若男女・幼児達が共有して使える、スクールタウンを作ってもらえませんか？

合併した旧町村役場の周辺は、かつてはにぎわった町だった、今はすっかりさびれて昔栄えた跡形もない「廃校したらもう村は戻って来ない」と書いておられる評論家がおりました。

— 文芸春秋2016年の論点参照 —